



桃五だより



No.595

(1月号)

2021.1.8

杉並区立桃井第五小学校

<https://www.suginami-school.ed.jp/momo5shoubg/>

牛歩のごとく

校長 川田 忠

12月某日 穏やかな冬の日

校長室から校庭を眺めると、3年生がベースボール型ゲームと縄跳びをしている。友達と声をかけ合い、教え合いながら運動することが楽しそう。マスクのため表情はわからないが、目が笑っている。

中央階段で2階に上がると、4年生のクラスから英語が聞こえてくる。外国語活動の授業だ。担任とJTEとのチームティーチングで、子供たちとの会話が続き、教室に英語が行き交う。子供たちは、話すこと、聞くことにずいぶんと慣れている。

隣の1年生は国語の学習。担任の指導の下、集中して話を聞く姿がある。ノートをのぞき込むと、漢字を使って書かれている。もう、ひらがなばかりのノートは卒業した。1年生の変容には、目を見張る。

3階に上がると、2年生が図工の学習で粘土作品を制作中。今年度、2年の図工は専科教員が受け持つ。子供たちが、あれやこれやつぶやきながら手を動かす様子は、想像の世界に浸っていると見える。

6年生は、少人数算数の授業。クラスを解体し、いろいろな友達と共に学ぶ場ができています。一つのグループは、学習の途中でタブレットを持ち出し、個々で使ったり、友達と協同で活用し対話の学びを進めたりしている。6年生にもなると、思うようにタブレットを使いこなしている。

北校舎1階の家庭科室では、5年生がマイバックを仕上げています。2人に1台のミシンを使って、互いに安全を確認しながら進めている。聞くところによれば、学校で初めてミシンに触れる子も多いという。

換気のため開け放たれた音楽室からは、楽しげな声が響いてくる。4年生が歌っている曲はドラえもん。マスクを付けての合唱だが、十分な声量。楽しいことに取り組む時、子供たちの声は大きくなる。

これが、いつもの桃五。これが、普通の日。子供たちが、いろいろな学びを積み重ねている。学習だけでなく、当番や係活動をし、給食を食べたり掃除をしたりして、友達と関わり学校生活を過ごしてきた。委員会、クラブ、たて割り班活動などの異学年交流の機会も大切にしながら、同学年の仲間との時間が流れてきた。

新型コロナウイルスの感染拡大によって、行事や学校公開、PTAイベントなどができなかった。それは、間違いなく子供たちを育てる上でマイナスになっている。やってあげたかった。子供たちを行事やイベント等でも育て、思い出を残してあげたかった。

だが、コロナ禍の中で子供たちの成長が止まっていたわけではない。1年生は1年生として、小学生の姿になってきている。最高学年も、学校の中で真のリーダーとして位置付けている。

できないことがあるからといって、止まるわけではない。できることは、たくさんある。そして、できないことも、工夫することでできるようになる。知恵を出し合って、前へ前へと進む学校にする。立ち止まらずに、後ずさりもせずに、先を見据えて前へ進む学校にする。

今年は丑年。子供たち一人一人が確かな成長をするように、牛歩のごとくゆっくりでも歩みを進める年にしていきたい。今年も、よろしくお願ひいたします。

1月の生活指導目標

寒さに負けない体をつくろう

3学期に入り、寒さが一段と厳しくなる季節になりました。学校では、感染予防のために教室の窓を開けておく等、換気をよくしているので例年の冬よりも室温が低くなっています。寒さを感じた時にもう1枚重ね着できるように、セーターやトレーナーなどを用意し、気温に合わせた衣服の調節ができるようにしてほしいと思います。ウイルスに負けない健康な体をつくるために、十分な睡眠と、バランスのよい食事、気温に合わせた衣服の調節、寒さに負けず外遊びなど、学校や家庭で励行していきましょう。